

報道各位

---

---

## 2017年 TOKYO FM コミュニケーションズ・グループ年賀式 ～2017年1月5日(木)午前10時30分 TOKYO FMホール～

---

---

株式会社エフエム東京は、2017年1月5日(木)午前10時30分より、TOKYO FM ホールにて、TOKYO FM コミュニケーションズ・グループ年賀式を実施し、代表取締役社長・千代勝美が、以下の挨拶を述べました。



皆様、新年あけましておめでとうございます。

今年、2017年は丁酉(ひのと とり)の年だそうで、「仕事や挑戦してきたことへの結果や果実を勝ち取る」年だそうです。また、酉年は「革命の年」ともいわれているようで、今年は色々な意味で機が熟し、新たな変革を起こす転機を迎える年になると予感されます。皆さんと共に、良き変革を起こしていきたいと思います。

本年は、年初からアメリカのトランプ新大統領の誕生を皮切りに、フランスの大統領選挙やドイツの連邦議会選挙、5年に1度の中国共産党大会など、各国で政治的な変動が予定されており、経済においては、現在は円安・株高基調にあるものの、アメリカの今後の経済政策、いわゆるトランポミクスの動向や、イギリスのEU離脱問題、中国経済の減速など、全く先行きの不透明な状態が続くと予測されます。

情報通信産業においては、IoTが益々進展し、AIの急速な進化など、その変革は留まるところを知りません。放送業界も大変革の時代を迎えています。ラジオ業界はAMのFM補完放送の推進や、IPサイマルを活用したタイムフリー聴取、ハイブリッドラジオの動きが活発化するなど通信の利活用を先行させていますが、音声メディアを起点とした通信との融合という今日的なテーマに取り組みながらも、音声メディアとしての本質的な価値を再構築することが経営課題であります。

また、スマートテレビなどのスマートデバイスの普及が進むと、ユーザーにとっては放送と通信の区別が曖昧となり、同一デバイスの中でユーザーの時間のシェアを奪い合うなど、すべてのメディアが競合相手となる事態が出現しようとしており、そうした状況の中では、ユーザーに選ばれる「価値あるコンテンツ」を創ることが益々重みを増してくると思います。その様な中で、当社グループおよびJFN38局が、将来をどのように捉え、この激変する経営環境の中でいかに生き抜いていくのかを様々な角度から検討し、戦略と施策を講じて行かなければなりません。

その一つとして我々が推進する「i-dio」につきましては、昨年7月のグランドオープン以降、超高音質デジタル放送の実現や、自治体の安全安心防災への活用の推進、さらにサイバーセキュリティへの利活用や、多言語デジタルサイネージの開発など、IoT時代に対応するビジネス開発に取り組んでいます。そして、もう一つの新たなチャレンジが、ネット上の音声ターゲティング広告である、デジタル・オーディオ・アドへの取り組みであります。昨年は、海外向け音声広告配信を皮切りに、『TOKYO FM WORLD』において、日本初のデジタル・オーディオ・アド・ネットワークを構築したことを出発点として、今年は新たな時代のエポックメイキングな変革にチャレンジしてまいります。

時代の変革はいやおうなく進んで行きます。その中で、我々は、変革の波に飲まれるのではなく、果敢にチャレンジして、変革を起こす主役とならなければなりません。当社グループとJFN38局が一丸となって、メディアとして社会的、文化的使命・役割を果たしていくという大きな志と、必ず成功させるという強い信念を持ち、全体の利益のために全力を出し合い、考えうる全てを考え、成しうる全てをなすという、「極める姿勢」がなければなりません。

そして、忘れてならないのは、これら変革のベースになるものは、我々がつちかってきた、「感動を提供し、共

感を得る」という変わらぬ理念、その理念に貫かれた「番組コンテンツの独自性の価値」を創造する力と、そして、玉石混交の膨大な情報の波の中で埋もれることなく、メディアとして発信する情報の信頼性という本質的価値をさらに育む信念や情熱であるということです。

その上で、それらを統合メディア展開の中で活用することによってこそ、変革へのチャレンジが成就されていく、ということを確認しています。

その価値を最大化するためには、JFN38 局のネットワークの総合力はかけがえのないものであり、貴重な財産です。この JFN ネットワークの価値を最優先していく、不変の座標軸が必要です。JFN38 局と当社グループ会社と共に、心一つにして、全社黒字化を達成しつつ、新時代の大変革の主役になる気概で進もうではありませんか。

今年は、全員が自らの仕事に対する意識と行動を改めて見直し、将来のビジョンを描き、自由闊達な発想と行動で新境地を切り拓いていきたいと思えます。全員が心一つにして、「チーム」として闘うということ、「組織」として最大価値を産み出すということに改めて取り組み、TOKYO FM の次世代に向けた企業文化を創り上げて行きたいと思えます。